



まもる
守

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

「目には青葉 山ほととぎす 初がつお」という句がぴったりの過ごしやすい季節になりました。市役所前のけやきの葉も、日に日に緑を濃くし、春から初夏に変わる季節を感じさせてくれます。ゴールデンウィークで家族や友人とお出かけになる方も多いと思いますが、皆さんいかがお過ごしですか。

さて、近ごろスポーティな自転車に乗った方が、さっそうと街中を走り抜けていく姿をよく見かけます。これは、ロードバイクという種類の自転車で、健康志向が高まっている中、数年前からジョギングとともにブームに火が付き、今では通勤に利用している方も多いようです。また、荒川の土手のサイクリングロードを走って葛西臨海公園まで行くことも可能ということで、その性能の高さにはとても驚きました。

ところで、自転車は、道路交通法上は軽車両なの

で、車道を走ることが義務付けられています。先日、都内を快走していたロードバイクが車と接触して、私の目の前で転倒する事故を見てハッとした事があり、一歩間違えると危険と隣り合わせだと、改めて感じました。平成20年の道路交通法の改正によって、13歳未満のお子さんが運転する自転車は、歩道を走ってもよいことになり安全性は高まりましたが、それでも昨年一年間で、小学生までの子どもの交通事故が、市内で16件も起きています。

また、同じく平成20年度の道路交通法の改正では、お子さんが自転車に乗るときにはヘルメット着用の努力義務が、また、自動車の後部座席でもシートベルトの着用が義務付けられ、安全対策はかなり進んできたようです。

市では、子育てにやさしいまちづくりを進めるために、以前から、6歳未満のお子さんのチャイルドシートを購入するときに補助を行ってきましたが、私はさらに効果の高いものはないか考え、実施は今年の6月からになりますが、小学校6年生までのお子さんを対象に、事業協力店で自転車用ヘルメットを購入するときに、2,000円を補助することにしました。お子さんをお持ちの方には、ぜひこれらの制度を利用させていただいて、家庭と行政が協力して、子どもたちが安全に暮らせるまちづくりを進めていきたいと思っています。

ではまた。

朝霞市は 男女平等を進めています

ーデートDVを知ろう①ー

「なぜ、デートDVは起こってしまうの？」

DVが起こる背景には、親密な関係になることで相手を「自分のもの」と考え、自分の思いどおりにするための手段として暴力を振るう「力の支配」や「男の子は多少乱暴でもよい」というような「暴力を容認する風潮」、そして、「男(女)だから〇〇でなくてはならない」という「ジェンダー(社会的・文化的に作られた性別)・バイアス(偏見)」などが関係していると言われています。

例えば、「男だから、彼女を引っ張っていかなくては」とか「女だから、おとなしく俺の言うことを聞けばいいんだ」などの意識や「優しく、何でも受入れる女の子の方がかわいい」という意識が「力の支配」に作用し、暴力(デートDV)につながってしまうことがあるのです。

*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問／人権庶務課 内2255 ☎463-2697

ひとの推移

人口	12万9,769人(+315人)	世帯数	5万8,590世帯
男	6万6,374人(+143人)		(+186世帯)
女	6万3,395人(+172人)	平成22年4月1日現在()内は前月比	

“ひとの輪が素敵な朝霞をつくる”

DV防止および被害者保護のための基本計画を策定しました

市では、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律第2条の3第3項」に基づき、「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の実施に関する基本計画」を策定しました。

この計画は、「朝霞市男女平等推進行動計画」の施策目標3「性の尊重と異性間の暴力の根絶」の施策事業を基に、具体的事業を位置付けています。計画書は、各公共施設に設置しているほか市ホームページに掲載しています。

問／人権庶務課 内2255

☎463-2697